

# 第五十一回全国短歌大会報告

鯨井可菜子

令和四年十月二十二日、第五十一回全国短歌大会が東京・神田の学士会館で開催された(司会進行は理事・東直子)。

応募者数は三九四名、応募歌数は一九一七首であった。各選者はすべての応募作に目を通し、七月

# 現代歌人協会会報 173

二十九日に行われた選者会議(オンライン開催)において、全国短歌大会賞二首、朝日新聞社賞一首、ならびに学生短歌賞二首を選出。これをもとに選歌集が制作され、大会当日を迎えた。

本大会は新型コロナウィルス感染症の影響で中止が続いており、学士会館での開催は実に三年ぶり。栗木京子理事長は冒頭の挨拶で、開催にこぎつけたことについて「やっぱり顔を見ながら短歌のことを話し合うのは、心が弾むものがある」と喜びを語った。また、

ロシアによるウクライナ侵攻や円安による物価高といった世情にも触れ、これらの問題を詠むべきかという問いについては、次のようなアドバイスを送った。「動植物を詠んだり食べ物を詠んだりしても、そこに経済とか外交とか、いろんな問題が自然とかかわってきます。『自然詠を詠むぞ』『社会詠を詠むぞ』と狭い範囲で捉えることなく自在に詠んでいただければ、おのずからそこに諸問題は絡んでくる。そう考えると作りやすくなるかなと思います」

大会が中止になった年は賞状・副賞の郵送、選評集の作成等の対応が取られていたが、今年は大会委員長・中沢直人の選考経過報告に続いて各選者が壇上で選評を述べ、受賞者の方々には直接賞状を手渡すことが叶った。また昨年は録画の公開で代替された特別選評も、今年は会場で、選者の外塚喬と中川佐和子による熱い議論を届けることができた。

合間には協会関係者と参加者が談笑する様子もみられ、栗木理事長の語った「顔を見ながら短歌のことを話し合う」喜びを、久しぶ

りに分かち合える機会となった。受賞者・受賞作は次の通り。

## \*全国短歌大会賞

所沢市 佐久間敬喜  
父逝きて十三年をとどまりてゐたる釘抜く父の力を

世田谷区 平安まだら  
ブラカードを日除け代わりにするあいだ太陽に見せていた

〔NOWAR〕

\*朝日新聞社賞

横浜市 田部井清子  
病室の窓から見える位置に立ちメールせしのちマフラーを振る

\*学生短歌賞

名古屋市中 渡邊美愛  
大人への背伸びが足りず一七のいまへ命令形の夕焼け

豊中市 葉村 直  
門限をはじめて破るさみといて給水塔の影がふくらむ

\*選者賞

内山晶大選 所沢市 佐久間敬喜

父逝きて十三年をとどまりてゐたる釘抜く父の力を

大松達知選 横浜市 大曾根藤子  
「避難した妊婦の出産どうするの」臨月の娘はつぶやきて黙す

鯨井可菜子選

江東区 福永アンナ  
高層ビルが私を覗き込むように倒れてきそうな復職初日

澤村芥美選 酒田市 村上秀夫  
また一つできてたことを手離して老いゆく母の独活の天ぶら

染野大朗選 松戸市 永野晴菜  
この店にがごめ昆布は有りますか奥から出して量りてくれぬ

千葉 聡選

世田谷区 平安まだら  
ブラカードを日除け代わりにするあいだ太陽に見せていた

〔NOWAR〕

外塚 喬選 藤沢市 辻 千穂  
木とともに公園に立ち木のように子どもを見つめ親になりゆく

中川佐和子選 大津市 深堀英子  
早苗田の湖まで続く土手のうえ空持ちあげて御輿はすすむ

松本典子選

世田谷区 平安まだら  
ブラカードを日除け代わりにするあいだ太陽に見せていた

〔NOWAR〕

横山未来子選

横浜市 田部井清子  
病室の窓から見える位置に立ちメールせしのちマフラーを振る

〔NOWAR〕

世田谷区 平安まだら  
ブラカードを日除け代わりにするあいだ太陽に見せていた

〔NOWAR〕

横浜市 田部井清子  
病室の窓から見える位置に立ちメールせしのちマフラーを振る

〔NOWAR〕

世田谷区 平安まだら  
ブラカードを日除け代わりにするあいだ太陽に見せていた

〔NOWAR〕

横浜市 田部井清子  
病室の窓から見える位置に立ちメールせしのちマフラーを振る

〔NOWAR〕

世田谷区 平安まだら  
ブラカードを日除け代わりにするあいだ太陽に見せていた

〔NOWAR〕

横浜市 田部井清子  
病室の窓から見える位置に立ちメールせしのちマフラーを振る

〔NOWAR〕

世田谷区 平安まだら  
ブラカードを日除け代わりにするあいだ太陽に見せていた

〔NOWAR〕

横浜市 田部井清子  
病室の窓から見える位置に立ちメールせしのちマフラーを振る

〔NOWAR〕



栗木理事長と平安まだら氏